

課題のポイント

取組の方向性

○地域で安心して暮らせる住まい・施設

- 小規模多機能の充実など地域での在宅を支える(市の資金面での充実)
- 無人家、住宅のリストアップ(持ち主との交渉を図る:税金対策/社会貢献)
- 空き家活用・対策を実施する
- 相談支援を実施する

○地域包括支援センター(職員不足、能力アップ)

- 中学校区に1つからもう少し増やせないか(25人に1箇所、8箇所)
- 業務の整理、機能の再検討を行なう(収入増、人材増加・育成)
- 相談(ケアマネ)の資質向上
- 人材・機能の強化・充実(組織的な活動)を図る

○地域における自立、ささえあい意識の向上(高齢者自身)

- 隣人相互の見守りを図る(立川市)
- 声かけを行う
- 「何もしないで暮らす人たち」の生活に目標を(孤独死)

○体制・人材育成等の支援体制強化

- 人材育成も組織づくりの中で進める
- 個々のケースの追跡調査、支援とそのため組織を整える
- 相談支援体制を充実させる(相談員に専門職を)
- 専門職(ソーシャルワーカー)を多く登用する(市職員)
- 個別支援計画を多面的な目からみてつくる(生涯にわたり、就労だけでなくグループホームなど)
- ケーススタディ〜フォローアップの仕組み・職員の自己研修・組織の再点検

○NPO、団体への支援、協力(連携を図るため)

- ボランティア活動にポイント制度(例:100点で市長表彰)を設ける
- ボランティアの教育を実施する
- NPO・団体などの拠点(市の施策等)提供(空きや活用)を図る
- NPO・団体はどこも財政難。活動が継続できるくらいの助成。財政団体(企業等)を育てる

○就学前・中・後(就労)、ライフステージにあわせて

- ライフステージ 教育と福祉が連携する。学校に行っている時も福祉に相談できる体制を整える

○障害児を抱える親(家族)への支援(孤立化防止・コミュニケーション)

- 就労場所の確保(障害のレベルに応じた)
- 一時預かり支援の拡充(さざんかクラブの充実)
- 親の会をどうするか(運営面)。知識不足で横のつながりが必要。研修があるが地域でどうするか